

本当に嘘のような話ですね

龍崎惣一さん（七十代）

龍崎ひろ子さん（七十代）

立っていられないほどの水の勢いだった

〈惣一さん〉近所の家では今回の水害で家が半壊となり住むことができないとなったため、高台にある渡里地区に引っ越ししましたね。

〈ひろ子さん〉もう一軒は水の流れが激しく、道路はえぐられ家の全壊、農業機械、その他のものも下の田んぼに落ちてしまいましたね。

〈惣一さん〉前の台風、六十一年の八月っていうのがあったんです。あのときは古い家だったんですけども、その時は（浸水被害は）床上八十センチだったんですよ。そのため新たに家を建てる時建築基準法ぎりぎりまで土盛りして上げたんですけど、今回はそれでも（床上）三十センチ。ブロック塀が頭しか見えない。

〈ひろ子さん〉それでも我が家は前の家・後ろの家より高く建築したのですが、もうあれでは逃げられないですよ。止められないです。

〈惣一さん〉家でも電気製品とかエアコンの室外機、給湯器も全部水をかぶってしまった。特に風呂には数日間入浴できなかったですね。そのため近くにある温泉に行きました。

〈ひろ子さん〉しようがない。上がったらもう同じです。多くても少なくとも。結局床全部張り替えたんですよ。断熱材も絞るようですよ。雑巾絞りです。だから、夏になるとカビちゃうんで、全て壁もやり直しましたし。綺麗に洗浄してもらって、乾いた新しいのを入れてもらってね。本当に嘘のような話ですね。全部やり直

し。

〈ひろ子さん〉あとはね、消防がボートで迎えに来たのですが、主人は安全だから家にいますと言いましたら、消防署の責任になりますと言われ、結局避難することになりました。（避難先の）支援学校の先生たちもいろいろよく面倒見てくれて。主人は胴長はいてたんで大丈夫ですよって言った。旦那さん、私の仕事だからおぶらせてくださいって。それでおんぶして歩いて水がないところまで。いや申し訳ありませんって言った。いいんです。鍛えてますからと言って、もう本当によくしてくれて。みんな一生懸命。

〈惣一さん〉堤防は田野川も嵩上げしたんだけど、やっぱりそれでも今回の場合は。十時頃ね、もうこれで止まったなと思ったの。玄關の階段が二段になって、最初の一段ぐらいで、びちゃびちゃ言ってたの。これで止まったなと思ったら、その後一時頃からぐんぐん上がって、結局ここまで。それが十月十三日の昼間。

子どもの頃は

〈惣一さん〉ここは（住み始めてから）七代八代っていうぐらいになりますよ。僕は小学一年生の頃から一人でもバケツを持って釣りやった。自分で仕掛け作ってやってましたね。十円もらって、道具を買って。昔はマブナっていうのと、あとはハゼが釣れた。綺麗な真つ白いハゼが。あとはウナギとか。ウナギってね、穴釣りっていうのかな、竿の先に糸と布団の針を縛って、でドジョウをつけて、穴の中にこうやると。がぶって、針を飲んじゃうわけだから。捕まえたウナギは食べますよ。だって私の小学生の頃なんて肉なんて一年に一回あるかない

かですからね。この辺で肉食べるといっような少なかったですよ。それも食べたのはだいたいクジラの肉だったんですよ。

本当にね、食べるものって漬物味噌汁とあとイワシか何かがあればいい方ですよ。だってサンマ売りに来た時は、サンマはバケツで買んですよ。バケツで買ってそれを保存したり。だから結局あとは那珂川に行ってるね。アユを釣ったりして、ちゃんと焼いて干して甘露煮にした

り。田んぼで、冬になったら水がないでしょ。ちつちつ穴を見つけてそこを掘ると、中にどじようがいるんですよ。それとウナギウツボをかけたりに取って。ウツボって竹ヒゴで編んで、そこから入れれば出れない。えさは中にミミズを入れました。私はドジョウはあんまり好きじゃなかった。みんなこの辺の人は、そんなおかずとかなかなかないから結局そういうものを利用して食べてましたね。秋になれば山菜きのこ取ったり。

（遊び方や釣りの仕方は）もう自然と、子ども同士で。昔だったら田野川ね、もうちよっと入り組んで、川幅狭いですからね、入り組んでるとこにみんなで砂利を集め、そこをせき止め、バケツで水を汲み出して、そこで魚を取ったりとか。

地域の人が朝から集まって

〈ひろ子さん〉（親鸞聖人がお田植えをされたといわれる真仏寺では）報恩講って十一月の初めの頃に毎年やっただけです。それが盛大に行われていて、みんな近所のお母さんたちが朝四時頃から手伝いに行ってる。昼間は近所の人

が来るでしょ。振る舞うわけですよ。ごはん

けんちんに煮物、あとお新香。質素なお食事ですけどそれも報恩講ついでということで、お参りに来てくれた人に出すんですよ。それが楽しみで皆さんも来てた。特に子どもたちは喜んで行ってましたね。報恩講は昔からもう百年ぐらい続いているんじゃないですかね。

〈惣一さん〉ここはね、あとは昔はお祭りがあつたんですよ。十一月の二十三日勤労感謝の日。地域のお祭り。朝三時頃から起きて、お赤飯をふかすんですよ、二段にして。せいろにいっぱい、それをお重箱にいっぱい詰めてそれを二つ、一つは赤飯でもう一つはおかずの油あげを煮たりきんぴらで、それを三軒くらいの親類に朝五時頃持っていくの。そうするとね、昔は地域でお祭りの日が違うんですよ。(祭りの日にお重を持っていくことを)うちがやると、今度は向こうの祭りのときにうちに朝五時から持ってくるんですよ。私なんか子どもなものに自転車を持ってたんですよ。届けるって言われてね。

飯富の豊かな土壌で美味しい野菜が穫れた

〈惣一さん〉昔はここ飯富っていうのは、ごぼうの産地だった。砂地で、柔らかくて美味しいんですよ。だから昔はね、汽車が走ってたんですよ。茨城鉄道ってね。茨鉄って。藤井と岩根、駅からごぼう積み出してほとんど大阪の方に出荷したんですよ。有名だった。ごぼうも土の種類により高台の黒土は全然味が違う。ごぼうは硬くて筋があつて。下の土地はどちらかというとと砂目なんです。土が赤いって言うかな。赤土なんです。砂も少し混じってますよ。だからごぼうとか白菜とかキャベツとかさういうものっていうのは甘みが全然違う。ごぼう

の後は、山芋やネギを作っていましたね。でも最近はみんなもう年寄りでやる人いないから、結局、他の業者により飼料用トウモロコシを育てている。